

事業評価票

30	東京医師アカデミーの運営 (病院経営本部経営企画部/病院会計)	事業開始	平成 20 年度
		事業終了予定	平成 ー 年度

【局評価】

1 どのような経緯で事業を始めたか、何を指すのか
<ul style="list-style-type: none"> ○ 勤務条件の厳しさを背景とする勤務医離れの傾向に加え、平成16年度から導入された臨床研修医制度の下、全国的に大学医局でのマンパワー不足が生じ、医師の引き揚げが行われた影響などにより都立病院においても医師に欠員が生じた。 ○ 病院ごとに実施してきた後期専門臨床研修を都立病院全体で実施し、スケールメリットを活かした豊富な症例やER研修等をフルに活用して総合診療能力と高い専門性を備えた若手医師を育成・確保する体制を確立する。
根拠法令等

2 どのように取り組み、どのような成果があったか
<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京医師アカデミーを平成20年4月に開講し、毎年、約100名のレジデントを採用している。 ○ 採用したレジデントを活用して当直体制の維持を図るなど、都立病院の安定的な運営に寄与している。 ○ 次代の都立病院の高度専門医療を支える優秀な人材を育成するためのクリニカル・フェローコースを23年度に開設した。 ○ 若手医師育成のための研修体制を充実する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医の配置や指導医資格取得支援等を実施 ・ 集合研修、講師招聘等による研修を企画実施 ○ 22年度から修了生を輩出し、22年度は23名、23年度は40名、24年度は36名の修了生を都立・公社病院等に確保した。

3 どのような課題や問題点があったか
<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京医師アカデミーの基本理念に基づく育成を行い、教育効果を向上させていくためには、レジデント教育にあたる指導医の更なるレベルアップが必要である。 ○ 高度専門医療を修得するために必要な研修プログラムの実施によるクリニカル・フェローコースの円滑な運営が必要である。 ○ 各年度の修了生を効果的に採用できるよう、引き続き取り組む必要がある。 ○ 東京ERの安定的な運営や、島しょ医療支援を維持していくため、研修内容や広報の更なる充実に引き続き取り組み、レジデント採用者数の確保を図っていく必要がある。

4 局として、事業をどうしていきたいか														
<table border="1"> <tr> <td>拡大・充実</td> <td>見直し・再構築</td> <td>移管・終了</td> <td>その他</td> </tr> </table>	拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他										
拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他											
<ul style="list-style-type: none"> ○ 研修プログラムの充実と、指導医の指導育成能力強化を行い、優秀な専門医を効果的に育成する。 ○ (公財)東京都医学総合研究所等と連携し、高度専門医療の修得に必要な臨床研究等を行える環境の整備を図る。 ○ 進路情報連絡会等を活用し、優秀な修了生を継続的に都立・公社病院へ確保する。 ○ 国の専門医制度改革の動向を踏まえ、また東京ERの運営等の診療体制確保も考慮しながら、引き続き研修制度として質の向上を図っていく。 														
<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">歳入</td> <td>24年度決算額</td> <td>— 千円</td> <td rowspan="3">歳出</td> <td>24年度決算額</td> <td>2,966,891 千円</td> </tr> <tr> <td>25年度予算額</td> <td>— 千円</td> <td>25年度予算額</td> <td>3,793,760 千円</td> </tr> <tr> <td>26年度見積額</td> <td>— 千円</td> <td>26年度見積額</td> <td>3,667,161 千円</td> </tr> </table>	歳入	24年度決算額	— 千円	歳出	24年度決算額	2,966,891 千円	25年度予算額	— 千円	25年度予算額	3,793,760 千円	26年度見積額	— 千円	26年度見積額	3,667,161 千円
歳入		24年度決算額	— 千円		歳出	24年度決算額	2,966,891 千円							
		25年度予算額	— 千円			25年度予算額	3,793,760 千円							
	26年度見積額	— 千円	26年度見積額	3,667,161 千円										

【財務局評価】

5 財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか
<ul style="list-style-type: none"> ○ 病院の安定的な事業運営を実施するため、都立・公社病院における修了生の確保に向けて、引き続き着実に取り組んでいく必要がある。 ○ そのため、研修プログラムの更なる充実や、レジデント育成の役割を担う指導医の指導育成能力の向上など、修了生の確保対策を推進していく必要がある。

6 26年度予算で、どのように対応したか						
<table border="1"> <tr> <td>拡大・充実</td> <td>見直し・再構築</td> <td>移管・終了</td> <td>その他</td> </tr> </table>	拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他		
拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 局案どおり、研修プログラムの充実や指導医の指導育成能力の強化など、所要額を予算計上する。 ○ なお、平成26年度の予算執行過程においても、適宜、実施方法の見直しを図ることにより、事業効果が最大限発揮されるように努めていく必要がある。 						
<table border="1"> <tr> <td>歳入</td> <td>26年度予算額</td> <td>— 千円</td> </tr> <tr> <td>歳出</td> <td>26年度予算額</td> <td>3,667,161 千円</td> </tr> </table>	歳入	26年度予算額	— 千円	歳出	26年度予算額	3,667,161 千円
歳入	26年度予算額	— 千円				
歳出	26年度予算額	3,667,161 千円				